

全漬連青年部会第31回全国大会九州大会を開催

去る10月19日、福岡市博多区のホテルオークラ福岡において、全日本漬物協同組合連合会の青年部が実施する青年部会全国大会「九州大会」が開催された。今回で31回を数え、福岡では二度目の開催となる。

この大会は例年、各県の組合が主催で開催されるが、今回は九州各県の漬物組合青年部の総力を結集し、開催された。

まず、吉田実行委員長（長崎県）の開会宣言により開幕。国歌斉唱の後、佐藤大会会長（大分県）が挨拶にたった。佐藤会長は、8月に北海道で起こった浅漬けによるO-157による食中毒事件について触れ、犠牲者に哀悼の意を表すとともに、青年部会の総意としてまとめた衛生管理徹底の宣言文を読み上げた。

次に来賓代表として、長井農林水産省食料産業局食品製造卸売課長、小川福岡県知事、高島福岡市長（代読松本農林水産局長）、秋本全日本漬物協同組合連合会会長、野崎九州漬物協会会長、そして本会正木会長から祝辞を述べた。長井課長からはO-157による食中毒について述べられ、「問題を起こした北海道の事業者は組合員ではないものの、これを踏まえ衛生管理の徹底を業界全体で取り組まなければならない。青年部から自主的な宣言は非常に頼もしく思う」と祝辞を贈られた。小川知事からは、「福岡県は日本三大漬け菜の一つ高菜漬けの代表的な産地で、全国から集まられた皆様へ歴史のある九州の食べ物をご堪能頂きたい」と祝辞を贈られた。本会の正木



全国大会の式典会場

会長からは「先行きは不透明であるが、若い力を結集しその存在感を発揮してほしい」と祝辞を述べた。

その後、参加県ごとに青年部の紹介が行われ大会は終了。引き続き本会と共催で記



祝辞を述べる正木会長

念講演会が行われ、第一部「明日の景色を創る～佳い食のチカラで街を元気に～」と題して有限会社一平代表取締役村岡浩司氏から講話がなされた。第二部「日本一を目指して!! ど田舎からのチャレンジ」と題し有限会社川津食品代表取締役社長川津峰之氏から講話が行われた。

この後の懇親会では、佐藤大会会長から次期開催県である茨城県漬物工業協同組合青年部の長島孝氏に対して、開催地引継ぎの伝達式が行われた。長島次期会長からは「次回大会テーマを“今!がんばる時…団結力!いばらぎ”とした。茨城県も震災に見舞われて大変な被害を受けたが復興している。元気であることを発信したい」と意気込みを述べた。

北海道でのO-157による食中毒は、組合員外が起こした事件とはいえ、業界全体を揺るがす大きな出来事であった。青年部の宣言にあるように衛生管理の徹底と会員相互の連携でこの苦境を乗り越え、業界の更なる発展を期待したい。

全日本漬物協同組合連合会青年部会

【宣言】

全日本漬物協同組合連合会青年部会は、消費者の安全・安心の確保や漬物の消費拡大のため、改めて衛生管理の徹底を図るなど、会員相互が連携し、今後の漬物業界の発展のために行動することを誓います。

平成24年10月19日

全日本漬物協同組合連合会青年部会
第31回全国大会九州大会において